

紋別穴場巡り解説



紋別港石碑

江戸時代の天然湾が港の始まりです。スケソウ、ニシン、ホッケ、カレイ、イカ、タコ、鮭、マス、ホタテ、カニなどが水揚げされます。岸壁の長さは約2 kmあって、オホーツク海側としては巨大な港です。外国との貿易の拠点となる重要港湾に指定されていて、ロシアなどから海産物のほか、石炭なども輸入されています。



オホーツク庭園

人工滝が2つある日本式庭園です。



旧岩倉土蔵

(下写真は明治時代の様子)

この辺りが紋別の初期、およそ明治時代の経済中心地でした。当時は都市と都市を結ぶ道路がなかったので、人や物の輸送は船で行っていました。漁業基地である紋別場所を拠点に街がつくられました。明治28年の人口は1083人で、そのうちアイヌの人が97人という記録があります。本州出身としては南部（今の岩手県）、越後（今の新潟県）、能登（今の石川県）の人が多かったそうです。この岩倉土蔵は1903年（明治36年）ころ造られました。これを造った岩倉梅吉さんは船の積み荷の運搬作業をおこなう会社を経営していました。



旧田中呉服店

この建物は1906年（明治39年）に建てられた田中呉服店です。この建物は紋別で唯一残されているうだつ（税・卯建）がついている石倉造りの町屋形式という建築方法です。この方法は本州由来ということです。創設者は田中亀次郎。田中呉服店は服だけでなく、みそ・醤油づくりや雑貨品、農産品を取り扱って北海道で手広く商売していた老舗でした。



紋別公園

歩いていける見晴らしの良い高台で紋別市街地の一部を見渡せます。正面のオホーツク海は冬は流氷で覆われて白い氷原となります。展望台は無料。



紋別市立博物館

昭和の初期の漁業基地「番屋」を再現した展示物の他、紋別を紹介したり、鴻之舞金山を紹介する映像などもある。紋別の産業や骨董品なども紹介されていて、懐かしさとともに楽しめる施設です。



旧遠藤醸造店

道路の反対側のこの古い建物は1918年（大正7年）に建てられた遠藤醸造店です。昔の本州で見られた典型的な商人が住む家の作りです。化粧垂木（けしょうたるき）による装飾はスキヤ造りと呼ぶそうです。